

薩摩郷句鑑賞 164

薩摩狂句曆 三條風雲児著 から

新甘諸終戦の年しゆ思めだせつ

畠中 大名竹

最近では甘諸も改良されて、驚くほど早掘りができるようになつたが、昔は月遅れの盆のころ、卵よりちよつと大きいくらいの新甘諸を掘り、お精靈どんに供えたものである。

新しい諸を食べながら、南瓜の葉つばかり、米ぬかまで食べた終戦後の食料不足の頃を思い出したのだろう。豊かな食生活の中で育つた人たちには、当時のひもじさ、食べものを手に入れるために苦労など、想像もできないことだろう。

丈夫な女房冗談く言かたで子もけ産

抜木 凡凡

「丈夫」は、この場合「体格がよくて壯健」という意味と、「気丈」という意味と両方が含まれているようである。

お産というものは、普通の場合、大変苦しくつらいものらしいが、冗談を言ひながら、お産をしてしまつたというのだから、なかなかの人であろう。作者は助産婦さんだから、今までに恐

らく何百回も取り上げたのだろうが、その中には、こんな人が居たのかも知れない。

他人て呉れじ惜しのた野菜い花が咲つ
(唱) 奢齎奴ち郷中でな疇

薩摩郷句誌 洋柿八二八号雑吟から

諸木 小春

検間に掘つたで余計絞られつ
(唱) 横着奴じやち大て五合灸

柳村 遊月

友達し恵つ波乱万丈を乘い越えつ
(唱) 困つた時の頼や友情

上田 喜八郎

金借いが無理じやつた態で門ぬ蹴つ
(唱) 啓齎奴が覚えつおれち

白澤 黒猫

婆が入院葬式ん支度くし始た亭主
(唱) 今度だけ死んち胸一杯ペなつ

中野 大八

長病ち繁つた草が教かせつ
(唱) 綺麗好つじやつて悪い瘤ぬ心配

北村 虎王

若白髪げ八十歳ん婆が席く譲つ
(唱) 有難と言てん誠て複雜

煩ろし手女房あ団扇で払れ除けつ
井戸川 三鶴

楠八重 游流

長げ昼寝晩も良う寝い氣樂き女房

柳村 遊月

楠八重 游流

郷句募集

◎10号

題吟「気温(はだも)

締切 令和5年9月4日(月)

◎11号

題吟「新米(しんめ)

締切 令和5年10月4日(水)

◇選者樋口一風

◇漢字のわからない時は、カナで書いて応募くだされば選者が適宜漢字をあててくださいます。

◇応募先 〒八九二一〇八四六

鹿児島市加治屋町三番一〇号
鹿児島市医師会『鹿児島市医報』編集係

T E L ○九九一二三六一三七三七

F A X ○九九一二三五一六〇九九

E-mail:ihou@city.kagoshima.med.or.jp

鹿市医郷壇



地

水すず飲めち叫ろだ爺様が熱中症

(唱) 家族いな言どん我があ飲まんじ

(評) 孫や息子たちと顔を合わせると、しつかり水を飲んでいるかと、叱つている爺様が、熱中症になつてしまつた、というありましたうな話です。

水分の欠乏だけが、熱中症の原因ではないでしようが、この句は、他人には喧しく言うが、自分はやらない人への皮肉も込めてあつて、耳の痛い句です。

人

兼題「熱中症」(ねつちゅうしょ)

天

上町支部 吉野なでしこ

頑固爺も我慢つみたどん熱中症

(唱) まだ大丈夫ち冷房を吝嗇つ

(評) 独居老人によくある例です。昭和一桁生まれの老人は我慢強いのです。

部屋の中だし暑さもあまり感じません。何より電気代が高くなつたので、勿体ないし少々の高温でも、クーラーも入れずに我慢しようと、頑張っています。

それにあまり汗もかかないでの水も飲みません。これがテレビで知つた、熱中症の例です。この句はそれを、ずばりと突いています。

紫南支部 加治屋犬好

暑い散歩連のだ犬ずい熱中症

(唱) 夕方なあ支障あ無かとい

(評) 原句は熱中症に(日射病)と書いてありました。私の若いころも、日射病と言いました。原句は、「犬も人も」と犬を先に書いてありました。流石「犬好き」先生の句だと思いました。毛皮を纏つた犬にすれば、真夏の散歩は苦痛だと思います。夕方の散歩に切り替えた方がよさそうです。

秀逸

五客五席

老爺あ家ん中でん熱中症

(唱) 歳すば取つたで感度も鈍し

伊敷支部 谷山五郎猫

熱中症あ水分給と冷やせち爺
真夏日ん熱中症言あ暑さ負け
熱中症夏場に多けが冬も有つ

伊敷支部 谷山五郎猫

熱中をば勘違げじやつた熱中症
騒動し過ぎ夏ちや当たい前熱中症

五客一席 清瀧支部 鮫島爺兒医
真夏日い帽子も被らじ熱中症
(唱) 三十五度い頭あ煮えつ

五客二席 紫南支部 二軒茶屋電停
閉じこもい部屋ん中でん熱中症

(唱) 高け電氣代いクーラも掛けじ

五客三席 清瀧支部 鮫島爺兒医
真夏日いゴルфи行たつ熱中症

(唱) 夏のゴルフは犬も食わんち

五客四席 上町支部 吉野なでしこ
挨拶も短こしたとい熱中症

(唱) 聽つ方が言にな凄ぜ長かつた

清瀧支部 鮫島爺兒医
真夏日いゴルфи行たつ熱中症

(唱) 夏のゴルフは犬も食わんち